



## NSAIDsの妊婦への投与における 胎児の羊水過少症のリスクにご注意ください

厚生労働省より2021年2月25日、シクロオキシゲナーゼ阻害作用を有するすべての非ステロイド性消炎鎮痛剤（NSAIDs）に対して、添付文書の使用上の注意「妊婦・産婦・授乳婦等への投与」に関する項目の改訂通知がありました。本改訂に際して、日本産科婦人科学会が注意喚起を呼びかけています。

今回の添付文書改訂は、NSAIDsの妊婦への使用例で認められた胎児の腎機能障害及び尿量低下、それに伴う羊水過少症のリスクがシクロオキシゲナーゼ2阻害によるものと判断されたことによります。

なお、以前より妊婦を禁忌とするNSAIDs（シクロフェナク等）もあるため、薬剤選択の際はご注意ください。

### 添付文書改訂の概要

すべてのNSAIDsに対して、「使用上の注意」の「妊婦・産婦・授乳婦等への投与」の項に下記内容が追記されました。

NSAIDsの分類	追記内容
解熱鎮痛剤 (経口剤、注射剤)	<ul style="list-style-type: none"> <li>投与する際には、必要最小限にとどめ、適宜羊水量を確認するなど慎重に投与すること。</li> <li>シクロオキシゲナーゼ阻害剤（経口剤、坐剤）を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水減少症が起きたとの報告がある。</li> </ul>
低用量アスピリン製剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>シクロオキシゲナーゼ阻害剤（経口剤、坐剤）を妊婦に使用し、胎児の腎機能障害及び尿量減少、それに伴う羊水減少症が起きたとの報告がある。</li> </ul>
局所製剤 (テープ、パップ、ゲル、軟膏等)	

### 妊婦へNSAIDs（経口・注射）を使用する場合、

- リスクベネフィットを考慮の上、**必要最小限**にとどめること
- 適宜、**羊水量を確認**すること